

TBWT

Task-based

WRITING TEST

GUIDE

-The 4th Edition-

I. はじめに

これまでの日本における英語科のテストは、英語の音韻や語彙・文法などの言語材料の知識が、聞く・話す・読む・書くなどの言語活動を行う技能を修得するための基礎になるという言語習得観を背景として、構成要素である言語能力を測定することによって言語使用のレベルを推測することができるという言語能力測定モデルに基づいて開発が行われてきました。しかし、われわれ英語教師はいくら言語材料に関する知識があろうとも、それらを英語によるコミュニケーションの手段として活用できないでいる学習者の指導を通して、言語それ自体を実際に使う能力を評価するためには、言語能力のような構成要素の知識を測定するテストの内容・形式を考えているだけでは不十分であることを経験的に認識しています。「英語が使える日本人育成のための行動計画」の実施に伴い、言語能力を言語使用能力と捉える考え方が広く行われるようになり、実践的コミュニケーション能力の指導実践が積極的に推進されている英語教育の現状を考慮すると、英語を実際に使用することのできる能力を測定するためのテスト法を開発することが、まさに指導と一体化した言語能力評価を行う上で必要かつ重要な研究課題であると考えられます。

タスクに基づくライティングテスト(Task-based writing performance test: TBWT)の開発を行うにあたり、1) 第二言語知識体系は規則に基づく体系(rule-based system)と記憶に基づく体系(memory-based system)という二層性の体系(dual-mode system)から成る、2) 学習者に課すタスクの特徴(テスト前の考える時間、制限時間、タスクの内容など)を変数として操作することにより、言語処理段階における両体系の関係がトレードオフの関係へと移行する、3) トレードオフの関係によりパフォーマンスが強く影響を受けるという調査結果(Skehan 2001)に着目しました。そして、このトレードオフの関係をテスト法の原理とする言語能力測定モデルを考案するために、タスクに基づくライティングテストの前提となる妥当な言語運用能力の構成概念(constructs)として、1) 規則に基づく体系への依存度が高いと考えられる accuracy(grammar, organization, vocabulary, rhetoric など、言語の形式的側面における運用能力の正確さ)と、2) 記憶に基づく体系への依存度が高いと考えられる communicability(意味・内容の伝達を重視し、言語による効率的な情報伝達を行うことのできる能力)という2つを想定しました。さらに独自の視点として、規則に基づく体系と記憶に基づく体系のどちらか一方への依存を意図的に高め、accuracy, communicability が顕在化するような言語使用を引き出す効果を持つ評価タスクの測定要因(time pressure, support, stakes)を操作することにより評価タスクに特徴づけを行い、最適化された評価タスクによって accuracy および communicability を測定するというモデル(*Construct-based Processing Approach to Testing*)を構築することに成功いたしました(Sugita 2009)。

このような言語能力測定モデルをベースとして具体的なタスクに基づくライティングテストを作成し、実施方法、評価基準、評点の意味づけなど実施形態についての検討を行い、実際に行ったテストの結果からテストとしての信頼性、妥当性、実用性についての検証を行ってきました。この検証結果に基づき、タスクを測定手段として行う信頼性・妥当性の高いライティングのパフォーマンス評価が可能となる評価基準・テスト方法の開発手順を確立し、従来評定者の主観的な価値判断によるところが大きいと考えられてきた学習者の言語使用による言語能力の評価というものに対して、客観的な評価方法となり得る可能性を与えたいと考えています。そして最終的な成果として、特別な訓練を受けたライティング評価の専門家ではなく、実際に教室で指導にあたる中学校・高等学校の英語科教員が、信頼性・妥当性の高いライティングのパフォーマンス評価を行うことができる評価基準・テスト方法の開発手順を確立することを目指しています。

II. 評価タスク

1. ライティング・タスク 1

(1) タスクの説明 (rubric)

この課題では、指定された内容を伝える英語の手紙をどのくらい正しい英文で書くことができるかをテストします。最初に、与えられたトピックについて自分自身のことをよく考えなさい。次に、英語の手紙の形式に合わせて、できるだけ正しい英文でトピックの内容を含む自己紹介の手紙を書きなさい。解答のための時間は20分間で、語数は100～120語程度としなさい。なお、採点は次の3つの観点から行います。

- ①与えられたトピックの内容を含む、自己紹介を目的とした手紙文としての適切さ
- ②言語的側面（文法・語彙・スペル等）の正確さ
- ③文章の形式的側面（構成・展開法）の適切さ

(2) タスクの指示

You are going to stay with Parker Family in Britain this summer. Write a 100-120 word letter introducing yourself to your host family. Before writing, think of the following topics.

- Your name and age
- Your job, profession, or major in school
- Your family and pets
- Your interests and hobbies
- Your favorite places, foods, activities
- Your experience in traveling abroad
- Some things you want to do while you are in England

2. ライティング・タスク2

(1) タスクの説明 (rubric)

この課題では、限られた時間の中で英文によるメモを書き、英語でどのくらい情報を伝えることができるかをテストします。最初に与えられた“Discussion Topic”に対する自分の答をできるだけ多く考えます。次に、その内容を(例)にならない簡潔に、わかりやすい英語で書き表すようにします。解答のための時間は10分間で、語数に制限はありません。1つでも多くの考えを英語で書き表すようにしてください。なお、採点は次の3つの観点から行います。

- ①課題の意図をよく理解して書かれた内容になっているか
- ②自分の考えや意図がわかりやすく伝えられているか
- ③内容を効率的に伝えるために適切な語彙や表現を使用しているか

(2) タスクの指示

You are going to have a discussion on the following topic, “Why do you study English?” In order to prepare for the discussion, think of answers to the question as many as possible. Then make notes about it the following table.

<p>Discussion Topic: why do you study English?</p> <p>— (例) <u>To travel abroad</u></p> <p>— <u>To</u></p> <p>— <u>To</u></p> <p>— <u>To</u></p> <p>— <u>To</u></p>

Ⅲ. 実施方法

1. ライティング・テストの実施方法

- 1) 「ライティング・タスク 1」を配布し、「(1) タスクの説明 (rubric)」の部分を読みテストの方法について確認をします。
- 2) 「(2) タスクの指示」をよく読み、20分間で解答を書くように指示します。
- 3) 20分が経過した時点で解答を止めるように指示し、答案用紙を回収します。
- 4) 「ライティング・タスク 2」を配布し、「(1) タスクの説明 (rubric)」の部分を読みテストの方法について確認をします。
- 5) 「(2) タスクの指示」をよく読み、10分間で解答を書くように指示します。
- 6) 10分が経過した時点で解答を止めるように指示し、答案用紙を回収します。

2. 評定作業の手順

- 1) 「タスク 1 の評価基準」を読み、ライティング・タスク 1 の評定を 5 段階で行ってください。
- 2) 「タスク 2 の評価基準」を読み、ライティング・タスク 2 の評定を 5 段階で行ってください。
- 3) 総合評価の評定を 5 段階で行ってください。

IV. 評価基準と評定尺度

1. タスク1の評価基準

評価対象となる言語能力特性 : Accuracy (grammar, organization, vocabulary, rhetoric など、言語の形式的側面における運用能力の正確さ)	
文章構成力 (Organizational skills) : 読み手に内容を正確に把握させるために論理的に文章を組み立てる力	言語的正確さ (Linguistic accuracy) : 語彙や文法、スペル、句読法などにおける誤り
<ul style="list-style-type: none">文章の構成および展開がうまくできている論理展開の方法が適切で説得力があるさまざまな連結詞の使用により、文章構成が明確である	<ul style="list-style-type: none">部分的に誤りはあるが、語彙使用が適切である主語と動詞の一致、時制、単数・複数、語順および語法、冠詞、代名詞、前置詞の使用にほとんど誤りがないスペル、句読法、大文字使用、段落分けの仕方にほとんど誤りがない

この答案には、上記の評価基準が

A(5) きわめてあてはまる

B+(4) かなりあてはまる

B(3) わりとあてはまる

B-(2) 少しあてはまる

C(1) あてはまらない

「A(5) きわめてあてはまる」

【解説】

- 文章の構成および展開がうまくできている
- 論理展開の方法が適切で説得力がある
- 部分的に誤りはあるが、語彙使用が適切である
- 主語と動詞の一致、時制、単数・複数、語順および語法、冠詞、代名詞、前置詞の使用にほとんど誤りがない
- スペル、句読法、大文字使用、段落分けの仕方にほとんど誤りがない

「B+(4) かなりあてはまる」

【解説】

- ・文章の構成および展開ができている
- ・論理展開の方法が概ね適切で全体的に理解できる
- ・語彙使用が不適切で部分的に意味がわかりにくくなっているところがある
- ・主語と動詞の一致、時制、単数・複数、語順および語法、冠詞、代名詞、前置詞の使用にやや誤りがある
- ・スペル、句読法、大文字使用、段落分けの仕方にやや誤りがある

「B(3) わりとあてはまる」

【解説】

- ・文章の構成および展開がほぼできている
- ・論理展開の方法は必ずしも適切ではないが、全体的にほぼ理解できる
- ・語彙使用が不適切で意味がわかりにくくなっているところがある
- ・主語と動詞の一致、時制、単数・複数、語順および語法、冠詞、代名詞、前置詞の使用に誤りがある
- ・スペル、句読法、大文字使用、段落分けの仕方に誤りがある

「B(2) 少しあてはまる」

【解説】

- ・文章の構成および展開が不十分である
- ・論理展開の方法が不適切で理解しにくい
- ・語彙使用が明らかに不適切で、意味を取り違えたり、意味がわかりにくいところがある
- ・主語と動詞の一致、時制、単数・複数、語順および語法、冠詞、代名詞、前置詞の使用に誤りが多い
- ・スペル、句読法、大文字使用、段落分けの仕方に誤りが多い

「C(1) あてはまらない」

【解説】

- ・文章の構成および展開ができていない
- ・論理展開の方法や語彙使用についての知識がほとんどなく、理解しにくい
- ・主語と動詞の一致、時制、単数・複数、語順および語法、冠詞、代名詞、前置詞の使用に誤りが非常に多い
- ・スペル、句読法、大文字使用、段落分けの仕方に誤りが非常に多い

2. タスク2の評価基準

評価対象となる言語能力特性：Communicability (意味・内容の伝達を重視し、言語による効率的な情報伝達を行うことのできる能力)

伝達内容の質 (Communicative quality)： 書かれている内容を、読み手が支障なく、明瞭に理解することができる	情報伝達の効果 (Communicative effect)： 与えられた課題に対して適切かつ十分に、関連性が明確である考えが効果的に示されている
・言語使用能力が確かなものであることがわかる ・自分の考えを表現したり、意図を伝えることのできるすぐれた構文力・語彙力がある	・与えられた課題に対してそつ無く回答している ・課題に対する関連性が十分にある考えが数多く提示され、効果的に内容が伝えられている

この答案には、上記の評価基準が

A(5) きわめてあてはまる

B+(4) かなりあてはまる

B(3) わりとあてはまる

B-(2) 少しあてはまる

C(1) あてはまらない

「A(5) きわめてあてはまる」

【解説】

- ・与えられた課題に対してそつ無く回答している
- ・読み手に対して非常に明瞭に内容が伝わる
- ・言語使用能力が確かなものであることがわかる
- ・自分の考えを表現したり、意図を伝えることのできるすぐれた語彙力がある

「B+(4) かなりあてはまる」

【解説】

- ・与えられた課題に対して部分的に回答している
- ・読み手に対して十分に内容が伝わる
- ・十分な言語使用能力があるが、不確かに思われるところもある
- ・自分の考えや意味を十分に伝えることのできる語彙力がある

「B(3) わりとはまる」

【解説】

- ・与えられた課題の一部に回答している
- ・読み手に対してほぼ内容が伝えられている
- ・言語使用能力はあるが、不確かに思われるところも多い
- ・自分の考えや意味をほぼ伝えることのできる語彙力がある

「B(2) 少しあてはまる」

【解説】

- ・与えられた課題のごく一部について回答している
- ・読み手に対して十分に内容が伝わらない
- ・言語使用能力が不足している
- ・語彙力の不足があり、自分の考えや意味を十分に伝えることができない

「C(1) あてはまらない」例

【解説】

- ・与えられた課題にほとんど回答できていない
- ・読み手に対してほとんど内容が伝わらない
- ・言語使用能力や語彙力が不足し、自分の考えや意味をほとんど伝えることができない